

京都南部地域
行政改革推進会議

乙訓地域

分科会

だより

vol.10



みんなが暮らしにくい
まちだから
みんなが考えよう
みんなのまちの将来を



乙訓地域は、開発されて便利になっている一方で、四季を感じられる自然がたくさん残っています。景色を見て季節を楽しむ感覚は、むかしも今も、そしてこれからも、きっと変わらないでしょう。

乙訓地域分科会では、向日市、長岡京市、大山崎町の広域的な行政のあり方について、調査研究や情報提供を行っています。今回は、分科会のこれまでの歩みを振り返ります。また、乙訓地域の住民協働のまちづくりや広域的な情報についても紹介します。

◆もくじ◆

特集 分科会のなりたちとあゆみ 2

合併した自治体はいま

愛知県北名古屋市、滋賀県東近江市 6

乙訓地域で広がる住民の手によるまちの活性化 8

乙訓広域ニュース 10

NHK大河ドラマ誘致推進活動の紹介 12



▲(第3号・平成20年3月発行)
乙訓地域の3,000人の方を対象に実施した、合併問題等に関するアンケート調査結果の概要についてお知らせしました。



▲(第2号・平成19年10月発行)
2市1町の「事務事業現況調査」から行政水準などを比較した情報を掲載。市町村合併に向けた国の取り組みや支援制度を特集しました。



▲(第1号・平成19年7月発行)
乙訓地域分科会の発足経過などをお知らせし、2市1町の事業内容を比較するための「事務事業現況調査」の結果を報告しました。



▲(第6号・平成21年12月発行)
全国・京都府の自治体の合併進展状況を集録。広域行政と地域分権、乙訓地域の一部事務組合や文化などについて紹介しました。



▲(第5号・平成21年3月発行)
決算収支をもとに2市1町の財政状況を特集。合併した他の自治体の状況などを紹介しました。



▲(第4号・平成20年9月発行)
前号の「アンケート調査結果」を細かく集計分析。これまでに合併した市町村の傾向を参考事例として紹介しました。



▲(第9号・平成24年12月発行)
京都府内の合併市町の効果・課題をさらに深め、組織効率化、財政基盤、住民の意見とその対応について紹介しました。



▲(第8号・平成23年12月発行)
京都府内の合併市町に対して実施したアンケートをもとに、合併後の自治体にみられる効果や課題、地域振興施策について特集しました。



▲(第7号・平成22年12月発行)
総務省発表の「『平成の合併』について」から、合併の効果や課題を特集。乙訓地域の住民参加のまちづくり紹介コーナーをスタート。

乙訓地域分科会のあゆみ

乙訓地域分科会では、今日まで、乙訓2市1町の行政のあり方や合併問題等について検討してまいりました。合併問題につきましては、住民の皆さまの議論が一層高まる

よう、広報誌「乙訓地域分科会だより」等を通じて情報提供などに取り組んでまいりました。ここでは、これまでに発行した乙訓地域分科会だよりを紹介いたします。

乙訓地域分科会だよりのバックナンバーは、乙訓地域分科会ホームページでご覧いただけます。
<http://www.otokuni-cbk.jp/>

特集

分科会のなりたちとあゆみ

乙訓地域分科会は、設置されてから12年がたち、広報誌（乙訓地域分科会だより）も本誌で10号を迎えます。そこで、乙訓地域分科会の歩みを振り返ります。

乙訓地域分科会のなりたち

将来の市町村行財政のあり方について、地域に即して幅広く検討する会議として、京都南部地域の6市10町1村と京都府で構成する「京都南部地域行政改革推進会議」が、平成13年8月に設置されました。「乙訓地域分科会」は、この京都南部地域行政改革推進会議の下に、向日市、長岡京市、大山崎町と京都府向日町地方振興局（現京都府山城広域振興局）で構成され、平成14年1月に設置され、乙訓地域における行財政基盤の充実・強化を図り、広域的対応も含めた行財政のあり方を検討する会として位置づけられました。

分科会では、乙訓2市1町における「人口・産業・面積構造」「議会」「行政組織」「観光」など、幅広い分野の現況を比較検討しています。とくに、行財政基盤の充実・強化を図る上で有効な方策のひとつとして考えられる合併についても視野に入れて研究し、検討を行ってきました。乙訓地域のあり方を考えるシンポジウム（平成17年）の主催や、合併問題に関する住民アンケートの実施（平成19年）などを行っており、調査研究結果や情報については、広報誌や乙訓地域分科会ホームページを通じて公開しています。
乙訓地域分科会ホームページ：
<http://www.otokuni-cbk.jp/>

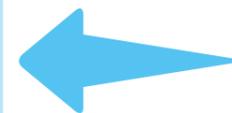
乙訓地域分科会 平成14年1月設置

- 向日市
- 長岡京市
- 大山崎町
- 山城広域振興局

京都南部地域行政改革推進会議 平成13年8月設置

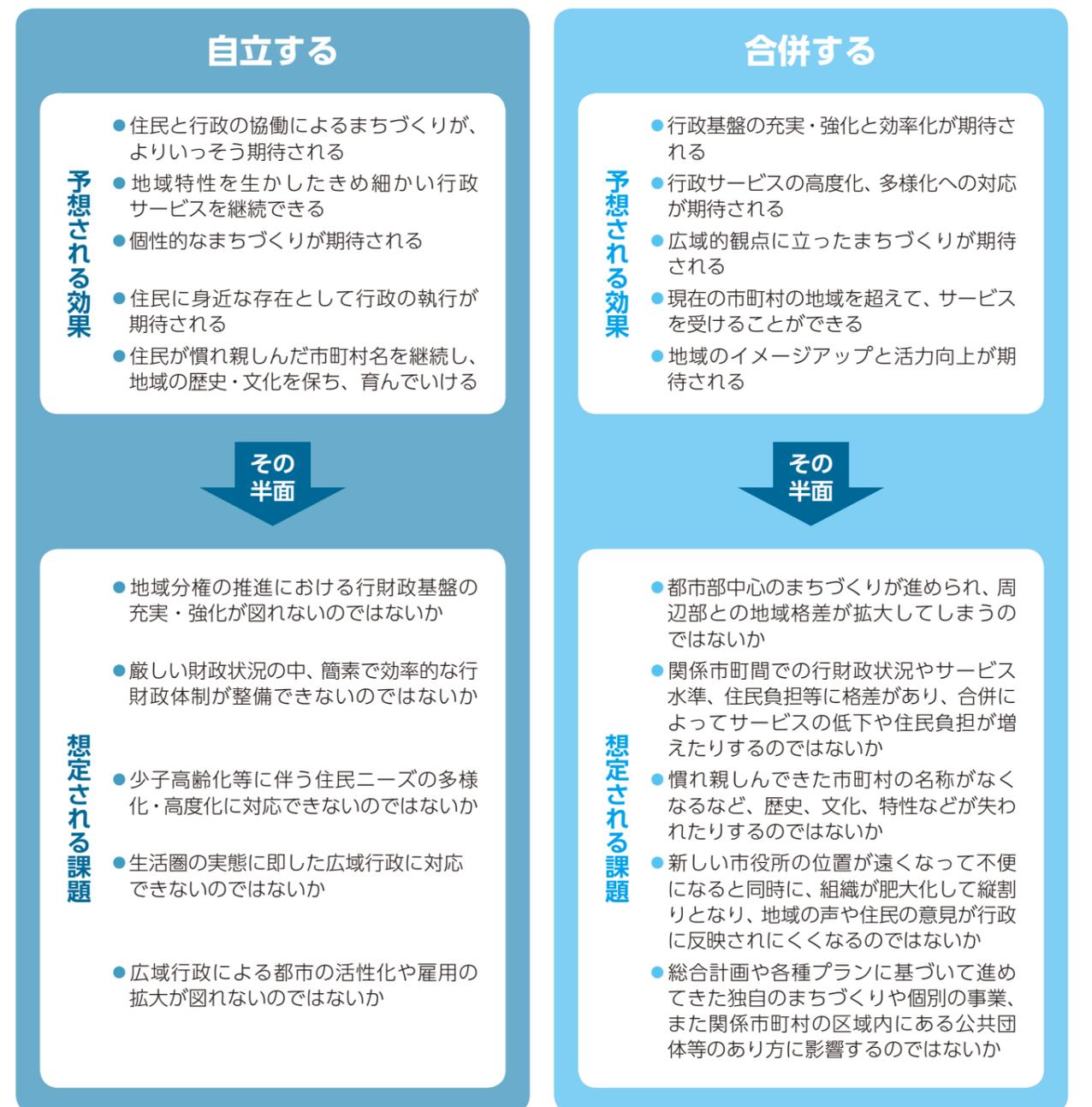
6市10町1村

- 宇治市・城陽市・向日市・長岡京市・八幡市・京田辺市・大山崎町・井手町・久御山町・宇治田原町・加茂町・山城町・木津町・笠置町・和束町・精華町・南山城村



「自立」と「合併」について考えてみましょう。

市町村を取り巻くさまざまな環境に対応していくためには、行財政基盤の強化を図らなければなりません。その有効な手段として確かな行財政基盤をもつ「自立」という考え方の一方で、「合併」が大きな選択肢として挙げられます。これまで、これらの二つの言葉が、相反する表現として対照的に使われることもありました。合併しないことを「自立」と表現して、そのための施策を行う市町村がいくつかあります。ここではそれぞれ、どのような効果と課題があるのかをまとめてみました。



教授と学生の Q&A

「合併」をした結果、どんな効果が現れているの？

学生 合併のピークだった平成17年前後から約8年たった今、各地ではどのような変化がみられているのでしょうか。乙訓地域を代表して学生のQ&Aですが、A教授に合併の効果について質問しました。

教授 先生、合併した各地の自治体ではどんな効果が現れているのですか。たしか合併によって、「ムダを省ける」と言われていますが、どうなったのですか。

平成24年末までの市町村合併で、全国の自治体数は半分近く減ったことになるわね。京都府内でも44から26になったわ。合併後、府内の職員数を比べると、合併自治体と未合併自治体の削減率に大きな違いはないわ。でも、人件費をみると、未合併自治体の約11%削減に対し合併自治体（ただし京都市のぞく）は約21%で、合併により大きく削減できたと言えるわね。

学生 合併した自治体では財政状況もよくなったのでしょうか。

教授 府内の合併自治体では、物件費は多く削減しているけど、他方で新しく基盤整備を進めているから、道路や公共施設の建設費などは増加しているわ。新たなまちづくりを推進しているわけね。ただ、これまで地方交付税が増額されてきた合併による特例がなく、その影響が明らかになるのはもう少し先のことになるかとみられているわ。

学生 合併して、「住民の声が届きにくくなった」という声もあるのでしょうか。

教授 住民一人あたりの議員数が減り、役所や役場が支所に格下げになったことの影響などで、そのような声も出ているそうよ。そういった声に対応するため、自治会や支所ごとに担当職員を配置して地域との連携を強化したり、地区毎の懇談会を開催して意見交換の場を設けたり、さまざまな取り組みが行われているわ。

学生 合併しないで、広域連携する自治体もあると聞きますが、どんな方法があるのですか。

教授 市町村合併では、複数の市町村が一つになることに対して、広域連携では、個々の市町村の区域はそのまま、連携調整して事業に取り組んでいるわ。乙訓地域でも、広域連携の一つとして、ごみ処理などをする「乙訓環境衛生組合」、福祉事業を担う「乙訓福祉施設事務組合」、消防事業を行う「乙訓消防組合」という3つの「一部事務組合」を作って事業を行っているわ。

これからの乙訓地域のあり方をみんなで考えていくことが大切ですね。先生のお話を聞いてもっと知りたくなりました。



合併した自治体は、いま

視察レポート



市の概要

北名古屋市は平成18年3月に旧師勝町、旧西春町が旧合併特例法に基づき新設合併した自治体です。

人口は8万2865人で、面積は18・37平方キロメートル(乙訓地域の約2分の1強)です。議員定数は、2町合併前は42でしたが、合併直後から半数近い24となっています。合併前の職員数は、563人(旧師勝町313人、旧西春町250人)でしたが、現在は502人となっています。

合併の経緯

平成14年4月に西春日井郡7町(旧西枇杷

島町、旧春日町、旧清洲町、旧新川町、旧師勝町、旧西春町、豊山町)で構成する「西春日井郡7町合併問題研究会」において調査研究を始めました。さらに、同年9月に枠組みを変えて協議し、平成16年4月から「師勝町・西春町合併協議会」において、本格的な検討を行いました。平成17年1月までの間に全9回の協議を重ね、平成18年3月に「北名古屋市」が誕生しました。

合併後の新たな事業と行財政改革効果

合併後の新規事業として、企業誘致施策を展開し、今後は給食センターの統合・建て替え、防災機能、情報通信機能を集約させた西庁舎分館の建て替えなどを予定しており、より一層の地域サービスの充実を図っています。

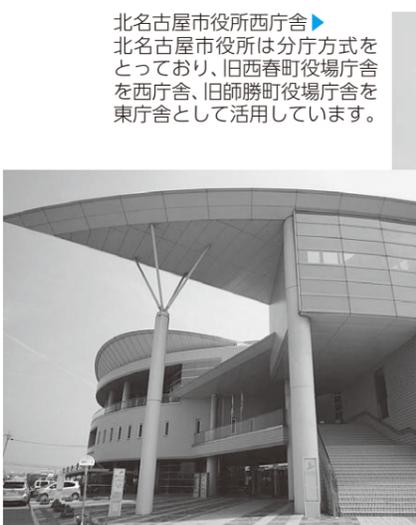
さらに、職員人件費の削減やシステム統合による経費縮減、例規の統廃合等による事務経費の軽減など、さまざまな歳出削減に努めています。

市民の声

「市民になれる」「住所が短くなる」「特別職や議員、職員が減り、歳費削減となる」などの声がありました。

また、「地域の特性が失われる」「合併しても実生活上それほど実感がない」などの声もあり

北名古屋市役所西庁舎▶
北名古屋市役所は分庁方式をとっており、旧西春日井役場庁舎を西庁舎、旧師勝町役場庁舎を東庁舎として活用しています。



▶健康ドーム
アリーナやトレーニングルームの他、露天風呂やクッキングルーム、子育て支援室などが設置され、スポーツと健康づくりの拠点施設となっています。

今後の課題

平成の大合併が一段落し、他市との合併の可能性が低くなる中で、今後は課題解決のために、広域連携によりさまざまな事業を展開していく必要があります。そのためには、広域連携における合意形成の方法についても検討していかなければなりません。

また、リニア中央幹線の開通を見据え、地域ブランド創出に向けた地域資源の発掘と魅力ある都市基盤の整備を進めることも課題となっています。



市の概要

東近江市は平成17年2月に旧八日市市、旧永源寺町、旧五個荘町、旧愛東町、旧湖東町が旧合併特例法に基づき新設合併し、平成18年1月に旧能登川町、旧蒲生町が編入合併した自治体です。

人口は11万6603人で、面積は388・58平方キロメートル(乙訓地域の約12倍)です。議員定数は、合併前は計100でしたが、1市6町合併直後に33となり、現在は、25です。合併直後の職員数は、1422人でしたが、現在は1163人(市立病院164人含む)です。

合併の経緯

この地域では、平成12年11月頃から市町村合併についての調査研究を開始し、平成15年6月「八日市市・永源寺町・五個荘町・愛東町・湖東町合併協議会」が発足し、平成17年1月まで

合併後の新たな事業

合併後の新規事業として、ケーブルテレビ整備事業を行い、情報提供基盤の格差是正と、市独自の番組を放映することによって新しい市としての一体感を醸成しています。

また、旧八日市市の8地区と旧6町に14のまちづくり協議会を設立し、各地区のコミュニティセンターの指定管理者として、地域の特性を生かした事業展開も行っています。

に全15回の会議を重ね、平成17年2月に旧東近江市が誕生しました。その後、同年3月「東近江市・能登川町・蒲生町合併協議会」が発足し、同年9月までに全5回の会議を重ね、平成18年1月に新「東近江市」が誕生しました。



▶東近江市役所
旧八日市市役所と旧建設省の六公共建築100選にも選ばれています。



▶東近江大風まつり
大風は、300年の歴史を持つ、国の選択無形民俗文化財です。毎年5月の最終日曜日に100隻数々の大風を上げる東近江大風まつりが開催されます。

市民の声

生活圏が重複する市町での合併であったため、利用できる公共施設等の活動エリアの拡大を喜ぶ声もありますが、現在でも旧市町の意識がまだ強い感があり、合併による新市としての一体感の実感には、もうしばらく時間がかかりそうです。

今後の課題

合併から8年が経過し、ある程度の事務の統一は図れていますが、県の指定する行政区を超えて合併が行われたことにより、それまでの一部事務組合の統廃合に至っていない状況にあります。今後、ごみ収集処理方法や、水道料金等の統一が必要になってきます。



▶五個荘金堂の町並み保存
五個荘金堂地区は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、近江商人たちの住居が保存されています。毎年9月23日に「ぶらっと五個荘まちあるき」が開催され、近江商人など時代絵巻行列が練り歩きます。



京都府地域力再生プロジェクト

乙訓地域で広がる 住民の手による まちの活性化

住民が自らの住みやすいまちづくりのための活動を行政と協力して行う取り組みは、京都府内、乙訓地域でもさまざまな形で広がっています。そうした団体を支援する「京都府地域力再生プロジェクト」から、いくつかの団体を紹介します。

「京都府地域力再生プロジェクト」とは？

人と人をつながった温かい地域社会を築き、京都の新しい魅力・価値の創造や、より質の高い公共サービスを提供する京都府の実現をめざし、平成19年度に始まりました。地域住民が協働して自主的に、暮らしやすく魅力的な地域にしようと取り組まれる「地域力再生活動」を京都府と市町村が連携して応援しています。

向日市

涼しくすごそう！

向陽小学校クール化計画2013

向陽小学校PTA

向陽小学校PTAは、学校で一日の大半を過ごす児童が少しでも夏を涼しく過ごせる環境を整えられるよう、ゴーヤーなどのつる植物をはわせたグリーンカーテンや緑の教室づくり、ミストシャワーの設置などに毎年取り組んでいます。グリーンカーテンや緑の教室の



グリーンカーテン普及大作战

骨組みには、地元の方から提供された乙訓の特産である竹を用い、育て方や日常管理方法については、地域の専門家や企業の方にご支援ご協力をいただきながら、学校や地域住民、専門家が一体となり、製作しました。



緑の教室

昨年設けたグリーンカーテンは、環境省「グリーンカーテンプロジェクト2012」ラフトコンテストのアイデア部門で最優秀賞を受賞しました。



竹すのこ作り

長岡京市

高齢者から子どもまで 「健康づくり」でみんな元気に

特定非営利活動法人 A・Kクラブ

「健康づくり」をキーワードに長岡京市の地域活性化をめざして活動しています。高齢者向けには介護予防体操や認知症予防の勉強会を実施し、元気な高齢者の増加や社会参加につなげています。子どもたちにはヒップ・ホップ・ダンスなどを通じてジュニアリーダー

の育成や、いじめ、自殺、非行の防止に取り組んでいます。また、社会生活への参加に難しさを感じている障がい者や独居老人などに、体力づくりと会話を楽しむ場を提供することで日常生活の向上を図り、地域のネットワークづくりにつながるよう活動しています。



ヒップ・ホップ・ダンス練習中!



健康維持の楽しい体操



生け花体験教室

私たちは生涯学習として地域の歴史や文化を学ぶとともに、地域の方々に、町にお越しになるお客さまをご案内して、地域の活性化に貢献できるように努めています。ガイドでは、春と秋に行う天王山ウォーキングや、個人や団体からの依頼により、天王山や山麓の名所を巡るコースを案内しています。また、社寺や大山崎町歴史資料館内での定点ガイド、地域の小・中学生の校外学習支援なども行っています。



校外学習支援 (離宮八幡宮)



ガイド (天王山山頂)



現地学習 (宝積寺)

大山崎の歴史と文化を ご案内します

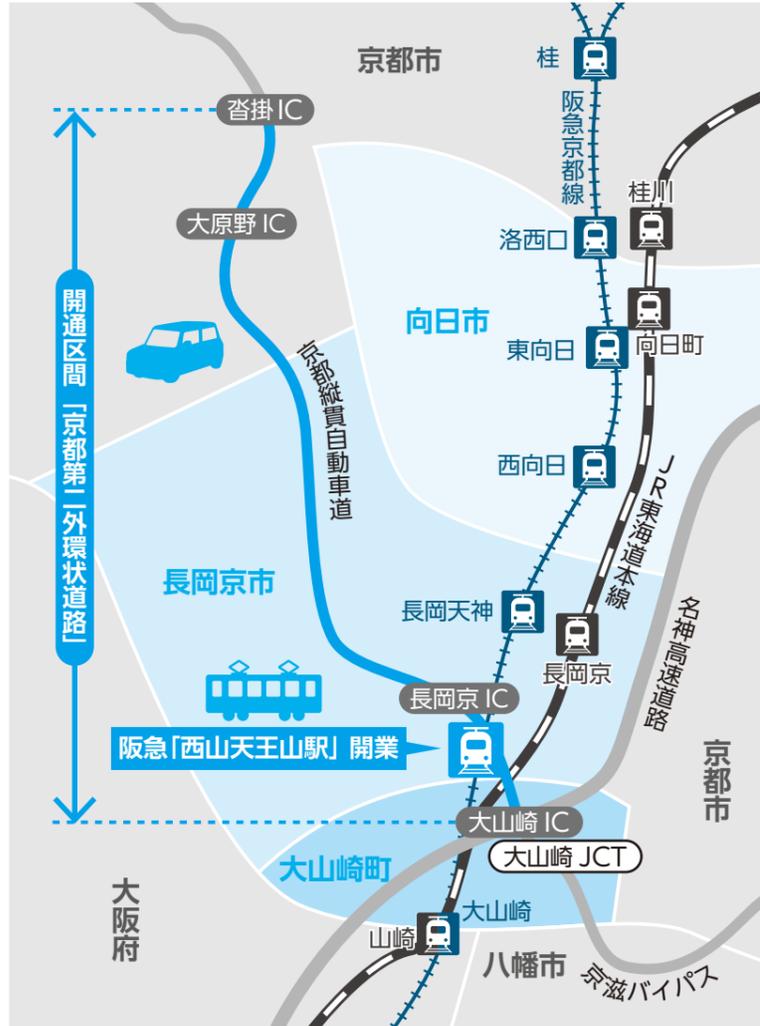
大山崎ふるさとガイドの会

私たちのホームページでは、町内の見所、モデルコース、行事案内、ガイド申し込み方法などをご紹介しています。
<http://www.w07.upp.so-net.ne.jp/otg/>

大山崎町

交通アクセスの向上で ネットワーク広がる

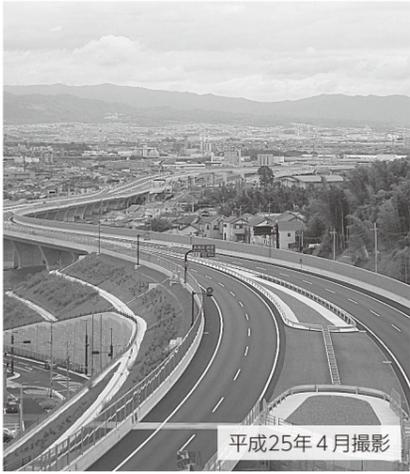
乙訓地域は古くから交通の要衝として発展してきました。平成25年は、第一外環状道路の開通と阪急「西山天王山駅」の開業という二つの大きな事業により乙訓地域にとって交通環境の大きな転機となりました。交通環境が整備されたことにより、地域の皆さまの暮らしが便利で豊かになると同時に、便利になった乙訓地域を中心により広域的な連携が推進される足がかりになることが期待されます。



京都第二外環状道路開通！

京都第二外環状道路が、平成25年4月21日に開通しました。京都第二外環状道路は、沓掛IC〜久御山ICをつなぐ自動車専用道路で、沓掛IC〜大山崎JCT・IC間の約9・8キロメートルが開通し、乙訓地域内には「長岡京IC」が開通されました。開通後、京都縦貫自動車道に名称統一されました。

京都縦貫道は、乙訓地域を含む京都府南部と北部を、また、名神高速道路との接続で高速道路網をつなぐ重要な役割を担っています。今回開通された第二外環状道路を使用することで、大山崎JCT・IC〜宮津天橋立IC間の所要時間が約110分から約85分に短縮されました。また、現在建設中の丹波IC〜京丹波わちIC間が開通（平成26年度予定）すると、さらに10分の短縮が見込まれています。



平成25年4月撮影

阪急「西山天王山駅」開業！



平成25年10月撮影

平成25年12月21日に、京都府内の阪急京都線では洛西口駅以来約11年ぶりとなる新駅「西山天王山駅」が開業。新駅前には、路線バスやタクシーが停留する広場や駐輪場、マイカーから電車に乗り換えられるパーク・アンド・ライド駐車場などが整備され、新たな交通拠点となるでしょう。また、新駅は京都縦貫自動車道の高架下に位置しており、高速バス停が整備されることにより、パーク・アンド・ライドだけでなく、高速道路と鉄道、バスを快適に乗り継ぐことができ、他では例を見ない高い利便性が提供されます。

研修レポート

乙訓2市1町における 広域連携

日時：平成25年10月8日(火)14時～15時半
(長岡京市役所にて)
テーマ：広域連携・広域調整による地域活性化
講師：京都府立大学 公共政策学部 教授 青山 公三氏

市町の自立性を確保しながら、今後の行政課題に取り組みための手法として、広域連携・広域調整の在り方についての見識を深めるため、乙訓地域分科会研修会を平成25年10月8日、長岡京市役所で開催しました。研修会は平成21年度から5回目の開催となり、今回は京都府立大学との共催事業として、京都府立大学公共政策学部の青山公三教授をお招きし、「広域連携・広域調整による地域活性化」についてご講演をいただきました。

青山教授は政府主導で推進された平成の大合併によって、基礎自治体における歴史やまちの特色が失われた側面があり、今後、市町村それぞれの特色を活かして広域的な

課題に対応するための方策として、広域連携による行政運営が効果的であると述べられました。

先進的に広域連携に取り組んでいる国内や米国の事例を取り上げ、地域の自立性を確保しながら、多様化、広域化する行政課題に対応する広域連携による行政運営の有効性の解説をいただきました。

今後の課題としては、広域連携を体系的に進める行政内部の組織構築や、京都府、大学、民間団体との連携システムを構築し、同じ業務の必要性を感じている自治体をこれまでの枠組みを超えて、連携する必要があり、乙訓2市1町についても、合併するという考え方もありますが、それぞれの特色を持ちながら、必要なことを広域連携でやるのが大切であるとの認識を示されました。

現在、乙訓2市1町では、乙訓環境衛生組合、乙訓福祉施設事務組合、乙訓消防組合の3つの一部事務組合を組織し、広域的な事業運営を行っておりです。

近年では、観光や福祉といった分野でも、乙訓2市1町による広域的な事業連携も図られており、今後より一層の充実が望まれると推測されます。



研修会の様子

NHK大河ドラマを誘致しよう!



ゆかりの地の自然・歴史文化の発信、観光振興、地域経済の活性化のため、大河ドラマ実現に皆様のご支援とご協力をお願いします。

平成23年4月にNHK大河ドラマ誘致推進協議会を設立し、ゆかりの地である乙訓を含む京都府内9市町と、隣接する兵庫県2市において、行政と民間団体が協働で、光秀・ガラシヤ・幽斎・忠興の大河ドラマ誘致に取り組んでいます。京都第二外環状道路開通で京都の南北の距離がぐっと縮まってより身近になり、これまで以上に連携しやすくなりました。これからも誘致活動をつづけます!

明智光秀、細川ガラシヤ、細川幽斎、細川忠興の4人は、激動の人生を生きた父と娘、父と息子、そして夫婦であり、その後の日本の歴史に大きな影響を与えました。波乱に満ちた戦国時代を生きた彼らの絆と生きざまをテーマとした大河ドラマは、単に戦国の世を描いたドラマにとどまることなく、現代にも通じる家族の絆、特に父と娘の絆を、深く考えさせる意義深い作品になるものと考えています。

NHK大河ドラマ誘致推進協議会では、署名活動をしています!

詳しくはwebをご覧ください。
<http://www.taiga-dorama.com/>



西園家武者行列
向日市まつりで大河ドラマ誘致活動として実施。



勝竜寺城
ガラシヤと忠興が新婚時代を過ごした地。今は公園として整備されています。



天下分け目の天王山
信長を討った明智軍と羽柴軍が山崎で合戦。

皆さまからのご意見をお待ちしています

●乙訓地域分科会では引き続き、広域行政についてご意見を集めています。郵便、ファクス、Webサイトから、いずれでもかまいません。お待ちしております。

発行：平成25年12月

編集：京都南部地域行政改革推進会議 乙訓地域分科会 <http://www.otokuni-cbk.jp/>

【連絡先】

向日市・企画調整課 / Tel 931-1111 Fax 922-6587 〒617-8665 向日市寺戸町中野20
長岡京市・政策推進課 / Tel 951-2121 Fax 951-5410 〒617-8501 長岡京市開田1-1-1
大山崎町・企画財政課 / Tel 956-2101 Fax 957-1101 〒618-8501 大山崎町円明寺夏目3



この印刷物は古紙/リブ配合の再生紙と大豆油インキで印刷しています。